

鳥取県の「交流」活発化に向けて

株式会社 山陰経済経営研究所

研究員 野津賢治

はじめに

全国的に定住人口の減少地域が拡大する中、交流施策を活性化策の中心に捉える地域の増加が予想されている。鳥取県においても、今後、国内外との交流を積極的に進め、活性化を図っていくことが求められている。

こうした状況下、鳥取県の交流を基軸とした地域活性化策検討のため、県の役割に見合った「交流人口」指標の作成などを目的に、「鳥取県の『交流人口』に関する基礎調査」が行われた。本調査は、平成6年度において、鳥取21企画センターが鳥取県から受託して行われたものであるが、当研究所は、調査機関として基礎的な部分の調査実務に当たり、今回、委託元の鳥取県企画部の了承を得て、ここに調査結果の概要を紹介するものである。

I. 「交流」をとりまく社会状況とその効果

1. 「交流」の活発化とその社会的背景

現在、「交流」を中心に据えた地域活性化の試みが、全国各地域で行われるようになってきている。そもそも、人や組織が常にその活動の中で行ってきた「交流」が、なぜ地域活性化の上で重要なキーワードとなっているのか、その社会的背景について考察してみる。

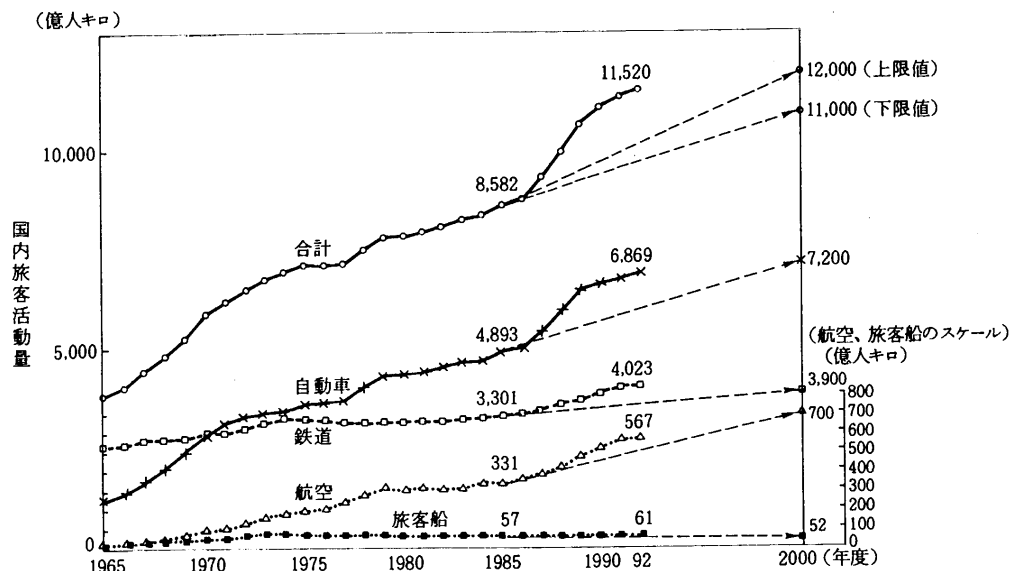
(1) 「交流」活発化とその要因

国土審議会調査部会の発表した四全総総合的点検調査部会報告（平成6年6月）によれば、全国の総旅客活動量は四全総の想定を上回るペースで急増しており、人々の「交流」活動は益々活発化してきている（図表1）。

その要因としては、以下のようなものが挙げられる。第一に、週休2日制の導入、総労働時間短縮などによる社会全体の自由時間の増大、及び平均寿命の伸長による第二の人生としての高齢者の自由時間の増大。第二に、高速交通体系の整備による人々の行動可能範囲の拡大。第三に、都市で生活する人々の「自然志向」・「ふるさと志向」の高

まりや、過疎化地域と都市とのつながりを求める動きの活発化。第四に、真の豊かさや人生の満足感、自分の個性や生き方を大切にする「自己実現型ライフスタイル」への変化などである。

図表1 国内旅客活動量（人キロ）の推移



資料：運輸省「旅客地域流動調査」等をもとに国土庁計画・調整局作成。

注1：軽自動車及び自家用貨物車によるものを除く。

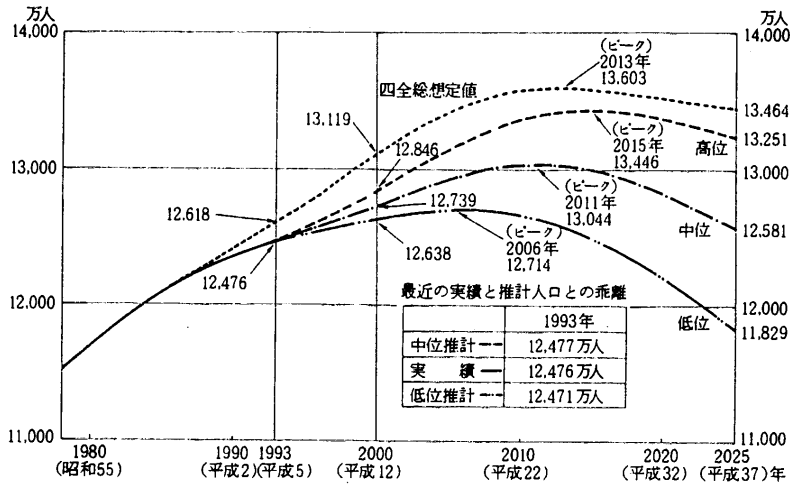
注2：細点線は、四全総における想定値を線形で表示したものである。

(2) 地域活性化策として「交流」が求められる背景

わが国の人口の伸びは、出生率低下などを要因に年々鈍くなってきているが、厚生省人口問題研究所の将来人口推計（中位推計）によれば、総人口は2011年をピークに減少に転じることが予想されている（図表2）。また、2018年には全人口に占める65歳以上人口割合が25.2%に達し、我が国はかつて経験したことがない高齢化社会に突入することが予想されている。

こうした状況下、定住人口の増大を図ることは多くの地域においてもはや困難と考えられ、人口減少に起因する様々な問題に対処するため、新しい地域活性化策が求められている。一方、人々の交流活動が活発化していることから、定住人口を維持する努力と併せて、他地域との交流を深めることにより「交流人口」を増加させ、その中で活力ある地域社会を構築していこうという考え方が広まってきている。既に様々な交流事業を活性化に活用している地域も出てきており、今後の地域活性化の一つの方向として期待されている。

図表2 我が国の総人口の推移



資料：総務庁「国勢調査」、「10月1日現在推計人口」、厚生省人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成4年9月推計）」をもとに国土庁計画・調整局作成。
 ただし、四全総想定値は、厚生省人口問題研究所「日本の将来推計人口（昭和61年12月推計）」の中位推計の値を用いている。

2. 「交流」により期待される効果

新しい活力や文化の創造を地域活性化に活かすために「交流」がどのような役割を果たすことが出来るのか、主な効果として考えられるものを以下に図示してみた。

図表3 「交流」により期待される効果

「交流」により期待される効果	内 容
①意識改革効果	「交流」による新しい刺激は、地域住民の意識を、開放的・積極的に変えるとともに、彼らの視野を拡大し、地域の良さの認識にもつながると考えられる。さらに、それらの効果を通して、地域の連帯感やアイデンティティの確立といった効果まで考えられる。
②ヒューマンネットワークの構築	他地域との人的ネットワークが形成・拡大されることにより、地域外の有益な情報が地域に入りやすくなり、地域づくりの新しい発想が開けてくる。
③イメージアップ効果	多様な「交流活動」、地域情報紙の発行、アンテナショップ開設などの積極的な情報発信により、全国的に知名度が上がる。また、豊かな自然や歴史資源、個性的イベントの開催などにより地域のイメージアップ効果が期待できる。
④経済効果	観光・宿泊のための施設整備や、その運営を通じて、新たな雇用創出の効果が期待出来る。また、訪問者の増加による収益の増大や、新たな特産品の開発、販路の拡大などの経済効果も期待できる。
⑤人材育成・教育効果	他地域の人や文化への接触は、大きな精神的・意識的な効果を地域住民にもたらす。また、交流事業は、その実施者を大きく成長させることから、新たな地域づくりの担い手が育成される効果も考えられる。
⑥定住促進効果	特定地域への訪問頻度の高まりが、定住に結びつくことが考えられる。また、「交流」による地域の魅力増大が、地域内の若者の他地域への流出防止にもつながると考えられる。

Ⅱ. 鳥取県における交流の現状

1. 統計データからみた交流の現状

(1) 人的な交流の状況

【国際交流】

①海外渡航者の動向

平成5年の鳥取県の海外への渡航者数は30,261人で年々増加してきており、昭和63年と比較すると1.5倍以上になっている。行き先別では、韓国が最も多く、北アメリカ、台湾、中国と続き、アジアへの渡航者が6割以上を占めている（図表4）。

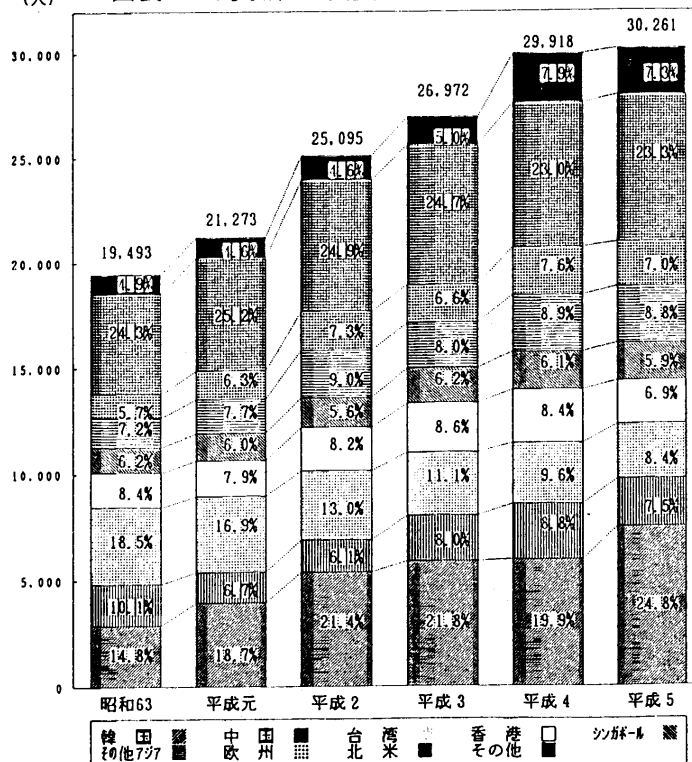
②国際チャーター便の運航状況

鳥取県は、鳥取、米子の二つの空港を有し、近年、国際チャーター便の運航が次第に活発になってきている。平成5年は78便が運航、利用者10,989人でここ5年で大きく伸びてきている。運航先別ではアジアが圧倒的に多く、中でも対岸諸国（韓国、中国、ウラジオストク）が大半を占めている（図表5）。

③海外との姉妹・友好都市（校）縁組の状況

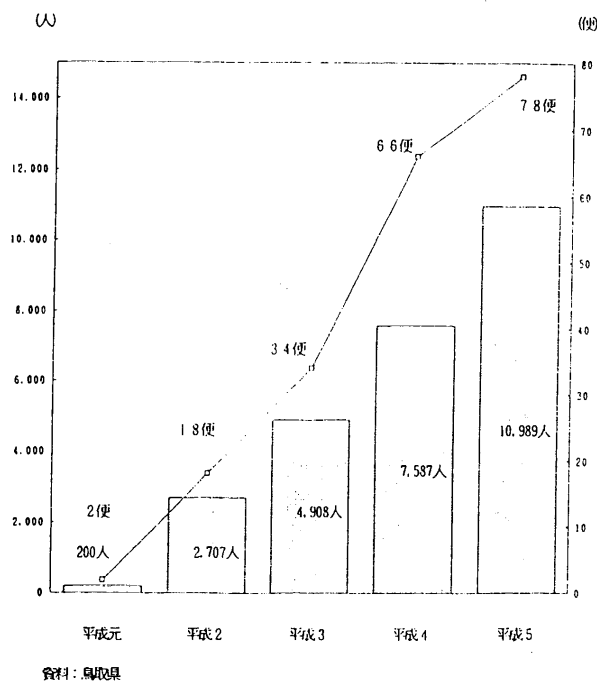
現在、鳥取県各市町村の友好・姉妹都市縁組数は8件で、小・中・高校の姉妹校縁組数は7件となっている。また県としては中国河北省と友好県省を締結するなど、日本海対岸諸国を始めとした国際交流を広げている。

(人) 図表4 鳥取県の渡航先別出国者数の推移



資料：法務大臣官房司法法制調査部「出入国管理統計年報」

図表5 鳥取空港・米子空港の国際チャーター便数及び利用人数の推移



【国内交流】

①観光による交流の現状

鳥取県の観光客入込動態調査によれば、平成5年度の観光入込客数は940万人余りとなっている。観光地別にみると、皆生温泉・鹿野温泉を除いた全ての地域が前年割れしており、特に大山と三朝温泉の減少が大きい(図表6)。また、温泉旅館宿泊客数は、最近5年間を通じてほぼ横ばいとなっており、地域別にみると米子市(皆生温泉)、三朝町(三朝温泉)の二つの温泉で全体の6割を占めている。

図表6 鳥取県の観光入込客数の推移(観光地別)

	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年
大山	1,870,700	1,932,400	2,009,400	2,050,400	2,033,300	1,847,400
鳥取砂丘	1,739,800	1,867,500	1,827,200	1,802,400	1,796,200	1,739,300
浦富海岸	892,600	954,700	950,900	925,600	924,600	857,700
岩井温泉	109,990	116,000	118,100	119,500	122,000	118,200
鳥取温泉	420,500	686,900	417,900	423,400	415,500	408,000
吉岡温泉	372,600	407,300	384,900	388,800	371,800	350,600
浜村温泉	343,000	364,100	360,300	377,600	420,800	385,700
鹿野温泉	62,100	66,100	65,500	67,500	70,900	72,700
東郷温泉	269,200	287,600	295,200	295,500	271,600	252,800
羽合温泉	417,200	431,500	450,000	457,700	424,500	417,100
三朝温泉	1,342,800	1,346,800	1,377,500	1,401,900	1,339,600	1,206,100
関金温泉	363,600	362,000	360,400	371,900	317,500	312,100
皆生温泉	1,373,900	1,394,500	1,442,100	1,482,100	1,360,700	1,437,200
合計	9,577,990	10,217,400	10,059,400	10,164,300	9,869,000	9,404,900

資料：鳥取県観光物産課「観光客入込動態調査結果」

②連携型の交流の現状

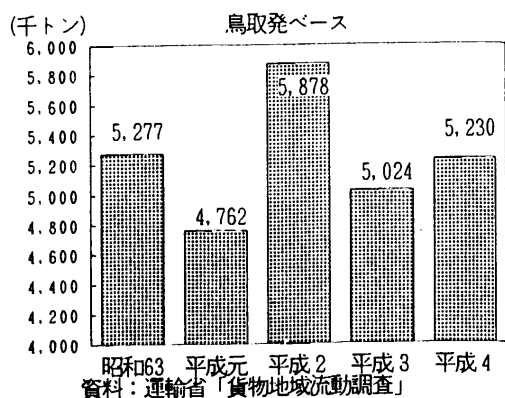
鳥取県では、姉妹都市縁組や各種サミットなどの地域間連携の積極的な推進が期待されているが、現在、鳥取市などの5市町村が姉妹都市縁組を行っているほか、友好交流が7市町村で行われている。

(2) 物的な交流の現状

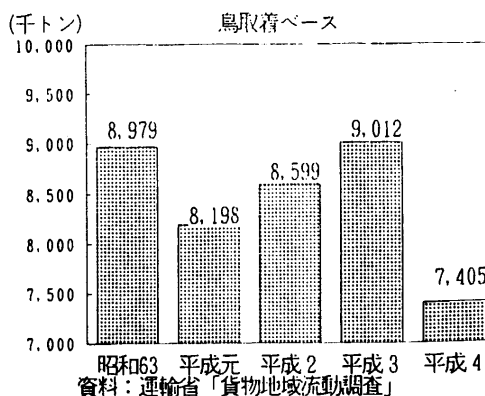
①総貨物輸送量の動向

鳥取県の総貨物輸送量（県内移動分を除く）をみると、鳥取発ベースが平成4年で5,230千トンと前年比増加している一方、鳥取着ベースが7,405千トンと大きく落ち込んでいる（図表7・図表8）。

図表7 鳥取県の総貨物輸送量の推移



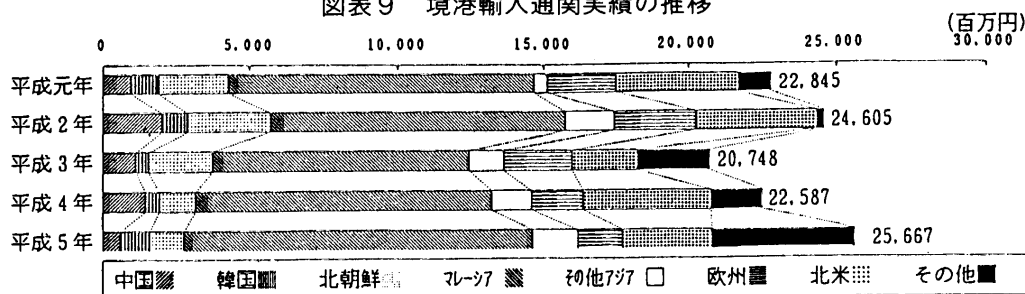
図表8 鳥取県の総貨物輸送量の推移



②海外との貿易動向

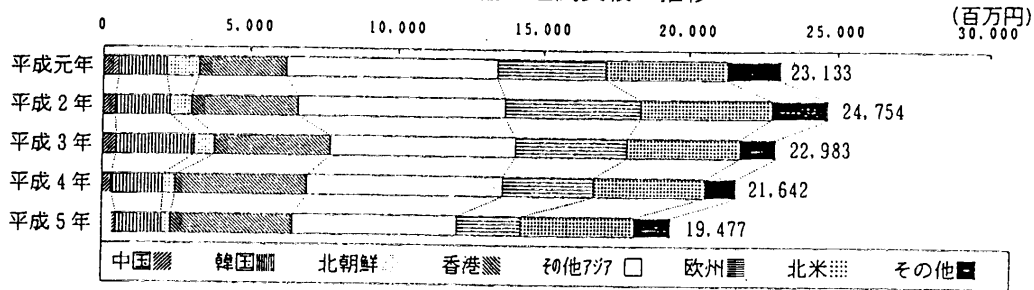
平成5年度の境港の輸入通関実績は、25,667百万円と2年続けて増加している。地域別では、アジアの占める率が最近5年間は常に6割超となっており、その中でも特にマレーシアの割合が年々高くなっている。一方、輸出通関実績は19,477百万円と3年続いての減少で、地域別では、アジアの割合が高く、その中でも特に香港の割合が高い（図表9・図表10）。

図表9 境港輸入通関実績の推移



資料：鳥取県貿易振興会「鳥取県貿易振興会報」

図表10 境港輸出通関実績の推移



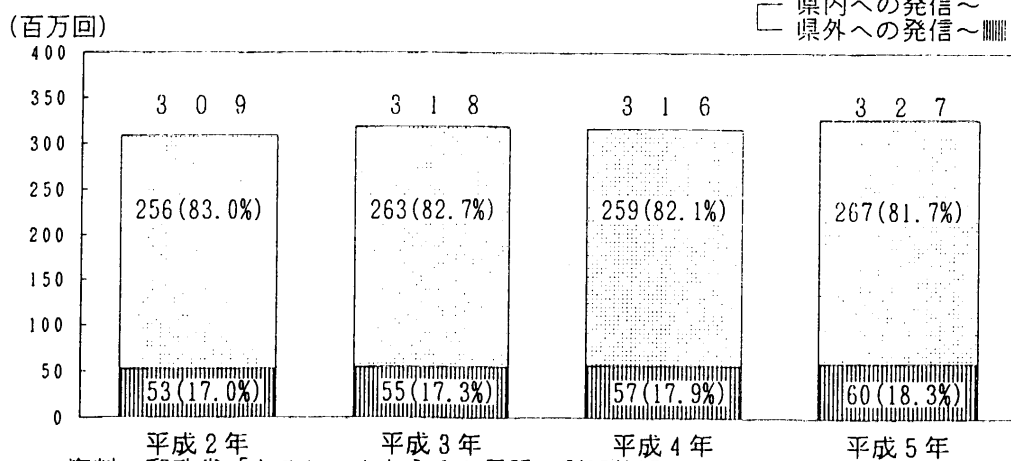
資料：鳥取県貿易振興会「鳥取県貿易振興会報」

(3) 情報交流の現状

①電話の総通話発信量の動向

平成5年の鳥取県の総通話発信量は327百万回で、最近4年間は横ばい状態が続いている。そのうち18.3%が県外への発信となっており、量・シェアとも僅かずつではあるが年々大きくなってきている（図表11）。

図表11 鳥取県の総通話発信量



資料：郵政省「トラヒックからみた電話の利用状況」

注意：（ ）内の数値はシェア

②「鳥取」に関する新聞記事の推移

「鳥取」という語句の入った新聞記事数を新聞各紙で検索（「事故」という語句の入った記事は除く）した結果、平成6年は日経4紙が702件（前年比142件増）、朝日852件（同333件増）、毎日336件（同48件増）、読売251件（同66件減）となっており、読売を除いて軒並み増加している。

③郵便物取扱実績の推移

鳥取県の郵便物取り扱い実績は平成5年で66,046千通（個）、前年比155千通（個）増加している。その内訳を見ると通常郵便物は着実に増加し、小包郵便物は平成3年以降減少に転じている。

2. 県内各市町村における交流の現状

(1) 各市町村の交流に対する基本的な考え方

交流に対する基本的な考えかたを把握するために、県内の各市町村に対して平成6年11月にアンケート調査を行った（全市町村が回答）。

その結果をみると、「交流事業」への取り組み姿勢については、地域活性化における重要な施策として捉え、「現在積極的に取り組んでおり、新たな事業展開も検討中」、あるいは「今まではあまり積極的でなかったが、現在積極的な活動を検討中」と回答した市町村が多く、今後の活性化方策として「交流事業」を積極的に活用していこうという姿勢を示した。

「交流」活発化によって期待される効果としては、「意識改革効果」「イメージアップ効果」がトップを占め、「経済効果」が続いた。

保有している「交流資源」の内容を尋ねた問いには、「自然・景観」が最も多く挙げられ、「歴史資源」、「特産品」等がこれに続いた。

現在実施している「交流事業」を尋ねたところ、「スポーツイベント」「お祭りイベント」のイベント型交流事業に回答が集中し、以下、「海外への青年派遣事業」、「観光客誘致事業」、「ふるさと宅急便制度」と続いた。

(2) 県内における交流資源

交流活発化のために行う交流事業では、ベースとなる交流資源が非常に重要となってくる。なぜなら、地域の有する交流資源により、おのずと交流事業の方向性が定まってくる場合があるし、また、地域独自の交流資源を十分に活かした交流事業こそが、真に魅力を持った交流事業となりえるからである。

図表12に鳥取県の有する交流資源を示した。地域の交流資源を十分に活かすという観点から、県内における交流資源を十分に把握し、今後、県の目指すべき交流のあり方を検討する上での参考となろう。

図表12 鳥取県の有する交流資源

交流資源	東 部	中 部	西 部	
① 自然・景観	鳥取砂丘(鳥取市・福部村) 白兎海岸(鳥取市)、鳥取温泉(鳥取市) 吉岡温泉(鳥取市) 白兎海岸のハマナス(鳥取市) 扇ノ山(国府町・八東町) 浦富海岸(岩美町)、河合谷高原(岩美町) 岩井温泉(岩美町) 唐川のカキツバタ(岩美町) 福部海岸(福部村)、三滝溪(河原町) 氷ノ山(若桜町)、那岐山(智頭町) 芦津溪谷(智頭町) 那岐山のドングツツジ・シャクナゲ(智頭町) 魚見台・浜村海岸(気高町) 浜村温泉(気高町)、野峰山(鹿野町) 鹿野温泉(鹿野町) 井ノヶ浜と青谷浜(青谷町)	打吹公園(倉吉市) 東郷湖羽合臨海公園(羽合町) 羽合温泉(羽合町)、酒の海岸線(泊村) 東郷温泉(東郷町)、三徳山(三朝町) 小鹿溪(三朝町)、三朝温泉(三朝町) 大山池(関金町)、関金温泉(関金町) 北条砂丘海岸(北条町) 西高尾ダム(大栄町)、大山滝(東伯町) 一向平(東伯町)、伯耆の大シイ(東伯町)	中海(米子市)、ウケ浜半島(米子市) 柗生温泉(米子市)、湊山公園(米子市) 米子水島公園(米子市) 越後野辺(会見町) 大山(岸本町・大山町) 銘水・天の真名井(淀江町) 特別天然記念物ダイセンキヤボク純林(大山町) 一息坂峠(中山町) ハマナス自生南限地帯(中山町) 道後山(日南町)、船通山(日南町) 石霞溪(日南町)、明地峠(日野町) 日野川(日野町)、滝山公園(日野町) 鶴の池公園(日野町)、樺水高原(溝口町) 奥大山(江府町)	
② 文化・イベント	歴史・人文 (有形)	仁風閣(鳥取市)、櫻翁神社(鳥取市) 摩尼寺(鳥取市)、大伴家母歌碑(国府町) 矢部家(八東町)、三百年氏住宅(若桜町) 若桜鬼ヶ城跡(若桜町) 不動院岩屋堂(若桜町) 鹿野権現跡(佐治村)、幸盛寺(鹿野町) 鹿野城跡(鹿野町)、護国寺(鹿野町)	伯耆回廊跡(倉吉市) 白壁土蔵部(倉吉市)、河口城跡(泊村) 泊の地蔵菩薩(泊村) 弘法大師坐像(泊村) 志比寿・大黒天像(泊村) 国室三仏寺奥院投入堂(三朝町) 三徳山宝物殿(三朝町) 史跡「山台台場」(大栄町) 奇尾庵寺跡(東伯町) 酒井片桐飛行砲跡(東伯町) 船上山(赤崎町)	米子城跡(米子市)、福山遺跡(米子市) 安養寺(米子) 赤備菩提寺〜大因主命ご遷葬神話(会見町) 大寺庵寺・石製船尾(岸本町) 土産庵寺跡(淀江町)、大山寺(大山町) 大山寺宝物館・茶室閣(大山町) 名和神社等名和公園歴史跡(名和町) 後醍醐天皇の御着船所(中山町) 木ノ根神社(中山町)、南登神社(中山町) 金持神社(日野町)、長楽寺(日野町) 泉龍寺(日野町)
	歴史・人文 (無形)	因幡の苜蓿綱引き(岩美町、気高町) 下船岡神社神幸祭(船岡町) 八上郷伝説(河原町)、弁天大祭(若桜町) 若桜神社大祭(若桜町) もちがせ流しびな(用瀬町) 佐治谷まなし(佐治村) 姫路神社「百手神事」(気高町) 湯三昧(青谷町)	橋津湊神社例大祭(羽合町) 三徳山炎の祭典(三朝町) 三朝神社・じんしよ花湯祭り(三朝町) せきがね里見まつり(関金町) 山良だんじり(大栄町)	大神山神社「もひとり神事」(大山町) 高杉神社「うわなり打ち神事」(大山町) 日野川(日野町)、滝山公園(日野町) 鬼の伝説(溝口町)
	伝統芸能	鳥取しゃんしゃん車踊り(鳥取市) 双盤念仏(鳥取市) さいとりまし(鳥取市) 因幡の車踊り(国府町) 麒麟獅子舞(国府町) ゆかむり唄(岩美町) 貝がら節・踊り(気高町) 鹿野祭・城山神社獅子舞(鹿野町)	酒大名行列(泊村)、泊貝がら節(泊村) せきがね田植唄おどり(関金町) 船渡の皿まわし(大栄町) 瀬・獅子舞(大栄町) 三本杉踊り(東伯町)	長田神社神幸式・一式飾り(西伯町) 法勝寺歌舞伎(西伯町) 小松谷盆踊り(会見町) 江尾十七夜踊り(江府町)
イベント (お祭り)	しゃんしゃん祭り(鳥取市) 国府町マストリフェスタ(国府町) グリーンステージこおげ(郡家町) あひ祭り(河原町) どうだんまつり(智頭町) 全日本杉の川上りレース(智頭町) 貝がら節祭(気高町) もうけ神社祭り(鹿野町)	倉吉打吹まつり(倉吉市) 酒夏祭り「海上御幸」(泊村) せきがね里見まつり(関金町) 北条砂丘フェスティバル(北条町) お台場まつり(大栄町)、白帆祭(東伯町) 産業文化祭・とうはくふるさとまつり(東伯町) 花湯まつり(三朝町) キュリー祭フランスフェスタ(三朝町) 船上山さくら祭(赤崎町)	米子がいな祭り(米子市) 米子市健康フェスティバル(米子) みなと祭(境港市) 全国柿の種吹き飛ばし大会(会見町) きないや祭(岸本町) 丸山ふれあい祭(岸本町) フェスティバル・ディア・マスマス(溝口町) 日野川ドリ・イカダレース(日吉津村) 大山雪と氷のまつり(大山町) 御幸祭(大山町)	
② 文化・イベント	イベント (文化)	日本のふるさと音楽祭(鳥取市) いわみ音楽祭(岩美町) 鹿野みか月川柳大会(鹿野町) ふるさとミュージカル(鹿野町) 中原誠名人杯将棋将棋大会(鹿野町)		富石の里町民音楽祭(会見町)
	イベント (スポーツ)	山陰松島健康マラソン大会(岩美町) 浦富海岸元気フェスティバル(岩美町) らっきょう花マラソン大会(福部村) 若桜米ノ山中高齢者マラソン大会(若桜町) 流しびなマラニック大会(用瀬町) なまきマラソン全国大会(気高町) バイオフィア西日本選手権大会(鹿野町) 野峰山走破大会(鹿野町)	ハワイ島のまち西日本観音ゲートボール大会(羽合町) グラウンドゴルフ発祥地大会(泊村) 東郷湖マラソン全国大会(東郷町) 全国ベテラン卓球東郷大会(東郷町) 日仏親善国際交流ベテラン三朝大会(三朝町) 砂丘クロスランナー(北条町) すいか・ながいも健康マラソン大会(大栄町) 由良川下りイカダレース大会(大栄町)	全日本トライアスロン柗生大会(米子市) チューリップマラソン(日吉津村) 大山高原マラソン全国大会(大山町) 奥大山チロルの里全国スキマラソン大会(江府町)
③ 各種施設	観光(交流)施設	鳥取県観光物産センター(鳥取市) 湖南自然体養村(鳥取市) お城山展望台・河原城(河原町) 八東町ふるりの森(八東町) 佐治自然活用村(佐治村) 佐治谷青少年旅行村(佐治村) 杉の木村(智頭町)、浜村緑の郷(気高町)	倉吉ふるさと物産館(倉吉市) 伯耆ロマンの里「ハワイ・馬の山公園」(羽合町) 竜風閣・燕趙閣(東郷町) 亀井公園(関金町) やすらぎの里・湯の関(関金町) 関金青少年旅行村(関金町) 逢坂海岸ふれあい広場(東伯町)	深田庭園(米子市) 水木しげるロード(境港市) 水産物直売センター(境港市) 境港公共マリナー周辺(境港市) 境港台場公園・境灯台(境港市) 南さいはく自然体養村(西伯町) フラーパーク(岸本町、会見町、溝口町)

資料：市町村アンケート結果をもとに山陰経済経営研究所で作成

(続き)

交 流 資 源		東 部	中 部	西 部
3 各種施設	観光(交流)施設	温泉館ホットピア鹿野(鹿野町)		大山ペンション村(岸本町) お菓子の存城(淀江町) 大山自然休養村(大山町) 地域休養施設「夕陽の丘神田」(名和町) ふるさと日南邑「ファームイン」(日南町) マウントバラダイス小倉(日南町) ゆきんこ村(日南町) 松本清張文学碑(日南町) 井上靖文学碑(日南町) アメダス茶屋(日南町) 大山鏡ヶ成国民休暇村(江府町) 市民農園「カサラファーム」(江府町) 奥大山自然休養村(江府町) 鬼の館・鬼の館の公衆トイレ(溝口町)
	文化施設	鳥取県立博物館(鳥取市) 鳥取民芸美術館(鳥取市) 渡辺美術館(鳥取市、わらべ館(鳥取市)) 山陰海岸自然科学館(鳥取市) 因幡万葉歴史館(因幡町) 森林学習展示館(河原町) 流しびなの館(用瀬町) まじアストロパーク(佐治村) 佐治村和紙民芸館(佐治村) 山根和紙資料館(青谷町)	倉吉博物館(倉吉市) 倉吉緋資料館(倉吉市) 緑の彫刻プロムナード(倉吉市) 歴史民族資料館(羽合町) みさき美術館(三朝町)	米子市美術館(米子市)、素戔館(米子市) 福山市考古資料館(米子市) 米子市立山陰歴史館(米子市) 米子市児童文化センター(米子市) アジヤ博物館・井上靖記念館(米子市) 海とくらしの資料館(境港市) 樋田正治写真美術館(岸本町) 佐武記念館(日南町) 県立大山自然科学館(大山町) 緑の館(日南町) 日南邑森林生態学習館(日南町)
3 各種施設	コンベンション施設	県民文化会館・梨花ホール(鳥取市) 鳥取市民会館(鳥取市) 鳥取産業体育館(鳥取市) 鳥取市文化センター(鳥取市) 県民ふれあい会館(鳥取市) 佐治村文化ホール(佐治村) 智頭町総合センター(智頭町) 鹿野町中央公民館(鹿野町)	県立倉吉体育文化会館(倉吉市) 倉吉福祉会館(倉吉市) 関兼町都市交流促進センター(関兼町) 農村環境改善センター(北条町) 農村環境改善センター(大栄町) カウベルホール(東伯町)	米子コンベンションセンター(米子市) 米子市公会堂(米子市) 米子市文化ホール(米子市) 米子市児童文化センター(米子市) 米子産業体育館(米子市) 鳥取大学医学部記念講堂(米子市) 境港文化ホール「シンフォニーガーデン」(境港市) 境港市民会館(境港市) ふるさと交流センター(西伯町) 〔仮称〕日南町コンベンションセンター(日南町) 町文化センター「ホール森の音楽隊」(日野町)
	レジャー・スポーツ施設	鳥取砂丘子供の国(鳥取市) 安蔵スキー場(鳥取市) 鳥取市営サッカー場(鳥取市) 鳥取ゴルフ倶楽部(鳥取市) 鳥取カントリークラブ(鳥取市) 旭陽郷温泉ゴルフクラブ(鳥取市) 鳥取フレイルランド(日南町) 日本海カントリークラブ輪葉山コース(岩美町) 東浜海水浴場(岩美町) 浦富海水浴場(岩美町) 姫路公園・レクリエーション・スポーツ施設(郡家町) 日本海カントリークラブ郡家コース(郡家町) 船岡町屋内ゲートボール場(船岡町) 霊石山カイススポーツエリア(河原町) 水ノ山スキー場(岩美町)	倉吉インターヒルズゴルフ場(倉吉市) 向山ゴルフクラブ(倉吉市) 羽合海水浴場(羽合町) グラウンドゴルフふる里公園「瀬風の丘とまり」(泊村) 三朝カントリークラブ(三朝町) お台場公園(大栄町)、水辺公園(東伯町) 光好ゴルフクラブ(東伯町) 八橋海水浴場(東伯町)	東山公園(米子市) 米子ゴルフ場(米子市) 大山国際乗馬クラブ(米子市) 皆生海水浴場(米子市) 安信山パークコース(米子市) グリーンパーク大山(会見町) 大山ゴルフ・大山平原ゴルフクラブ(岸本町) 大山ゴルフクラブ大山コース(淀江町) 大山フィールドアスレチック(大山町) 大山乗馬センター(大山町) 大山国際・薬田山・上の原スキー場(大山町) 名和スポーツランド(名和町) 花見山スキー場(日南町) 奥大山・鏡ヶ成スキー場(江府町) 榎水原スキー場(溝口町) 大山アークカントリークラブ(溝口町) 大山日光カントリークラブ(溝口町)
4 特産品		二十世紀梨(全県) アゴ竹輪・豆腐竹輪(鳥取市) 荒瀬黒炭(因幡町)、松葉餅(岩美町) らっきょう(福部村)	源五兵衛西瓜とまり漬(泊村) 岩ガキ(泊村)、トチモチ(三朝町) 砂丘葡萄・砂丘ワイン(北条町) 大栄すいか(大栄町) 砂丘長いも(大栄町)	各種水産加工品(境港)、富有柿(会見町) チューリップ(日吉津村) りんご(名和町)、プロココリー(中山町)
5 産業・技術	先進的産業	エレクトロニクス産業(液晶、センサー等)	エレクトロニクス産業	エレクトロニクス産業(液晶等)
	伝統産業	竹細工(鳥取市) 因州佐治みつまた紙(佐治村) 因州青谷こうぞ紙(青谷町) 半の戸焼(河原町)、因久山焼(郡家町)	土神山焼(倉吉市)	浜かすり(米子) 法勝寺焼(西伯町)
	技術	乾燥地研究・砂漠緑化(鳥取大学乾燥地研究センター、新産業創造センター) キッチン・キトサン(鳥大等) ゲージ・リアリティー(新産業創造センター) エレクトロルミネッセンス(鳥大)		水温技術(水温研究所)
学術研究機関 高等教育機関	鳥取大学(鳥取市)、工業試験場(鳥取市) 新産業創造センター(鳥取市)	鳥取女子短期大学(倉吉市)	鳥取大学医学部(米子市) 鳥大医療技術短期大学部(米子市) 米子工業高等専門学校(米子市)	

(3) 各市町村の具体的な交流事業例

県内各市町村の行う交流事業について図表13に示した。ここでは、特に地域の資源や特色をうまく活用している事業について紹介・検討を行いたい。

①佐治村「手すき和紙体験事業」

佐治村の伝統工芸品である、因州和紙の作業工程のうち、紙すき、乾燥作業の体験が出来る事業。主として、「和紙民芸館」を中心に行われており、作業により作成した色紙を土産として持ち帰ることができる。

②若桜町「若桜氷ノ山中高齢者全国マラソン大会の開催」

氷ノ山を舞台に全国から集まったマラソン愛好家が、男女年齢別に10部門5kmと10kmに別れ健脚を競うイベント。今年で21回目となる歴史の長い大会である。特に県外への宣伝は行っていないが、過去の参加者への大会要綱等の送付などの効果から固定参加者が多く、また、口コミにより新たな参加者も増加している。

③青野町「大阪府池田市との姉妹縁組」

海に面した土地を持たない池田市が、海水浴の出来る保養所の建設にあたり、全国でも珍しい鳴砂の浜がある青谷町を選定し、これを縁として姉妹都市縁組も締結された。毎年、池田市内の小学校から6年生全員を対象に、夏休み中に2泊3日で臨海学校が行われ、また、5・6月には自然体験学習を目的とした研修が行われている。

図表13 各市町村における具体的な交流事例（市町村アンケート結果より）

交流の型	市町村の具体的な交流事業・交流促進施策例	実施市町村
体験型 交流	○「フレッシュ農業の町づくり事業」～神戸大学農業関係学部生約10名の農家でのファームステイ受け入れを実施	北条町
	○「日南町山村留学親制度」～山村の小学校への転入学を希望する、都市部の生徒の受け入れを行っている	日南町
	○和紙民芸館において、因州和紙の手すき作業を体験することが出来る	佐治村
	○大阪府市民生協組合員との農業体験（春の田植え、秋の収穫祭）を通じた交流が行われている	智頭町
	○主として観光客を対象として陶芸教室・織物教室等が開催されている	三朝町
	○名和長年公ゆかりの京都市築紫校区小学生の訪問により、農業体験等を行っている	名和町
	○「カサラファーム」の貸農地を神戸市魚崎町が2区画保有しており、毎年、農業体験を行っている	江府町
	○「中原誠名人杯争奪将棋大会」～中原誠将棋名人の生誕地にちなんで将棋の大会	鹿野町
	○「全日本トライアスロン皆生大会」～日本で最初に行われたトライアスロンの大会、県外から多数の参加がある	米子市
	○「八上姫ジャパルディースカップ」～霊石山で開催される女性によるパラグライダー・ハングライダーの全国大会	河原町
○「若桜氷ノ山中高齢者全国マラソン大会」～氷ノ山を舞台に、全国から集まったマラソンの愛好家が健脚を競う	若桜町	
○「グラウンドゴルフ発祥地大会」～泊村で生まれた生涯スポーツ「グラウンドゴルフ」の全国大会	泊村	
○「大栄町すいか長いも健康マラソン大会」～大山、日本海を望みながら健脚を競いあう健康マラソンの大会	大栄町	
○「鳥取しゃんしゃん祭」～因幡の傘踊りを一般向けに振り付けし、多数の市民が参加する	鳥取市	
○「米子がいな祭り」～がいなパレード、がいな太鼓、がいな万灯等を中心とした、市民参加型のお祭り	米子市	
○「境港水産まつり」～大漁祈願や鮮魚の即売等が行われ、多くの観光客が訪れる	境港市	
○「キューリー祭（フランスフェスタ）」～ラジウム発見者キュリー夫人の命日に感謝行事を行う、仏大使館正式行事	三朝町	
○「全国柿の種吹き飛ばし大会」～町特産の富有柿の種を飛ばし、その飛距離を争うイベント	会見町	
○「大山紅葉まつり」～探検護摩法要、稚児行列、施餓鬼、大山僧兵太鼓等が行われる	大山町	

(続き)

交流の型	市町村の具体的交流事業・交流促進施策例	実施市町村
コンベンション型交流	○市町村が積極的に取組を行っているような事例はないが、県立県民文化会館・梨花ホール(平成5年秋開館)や米子コンベンションセンター(平成10年5月開館予定)などのコンベンション施設は県全体で次第に充実してきており、また、今年2月には県のコンベンションビューローも既に設立されており、今後のコンベンションによる交流の活発化が望まれているところである。	
視察・ビジネス型交流	○鳥取県の視察・ビジネスによる交流は、主として県庁所在地であり行政機能や企業等の集積している鳥取市、県西部における行政・商業の中心である米子市などを中心として活発に行われている。	
提携型交流(国内)	○国内他地域との姉妹都市交流を行っている県内の市町村 ～鳥取市＝北海道釧路市、兵庫県姫路市(毎年、陸上・水泳によるスポーツ交流イベントを開催) ・岩美町＝兵庫県温泉町 ・佐治村＝秋田県皆瀬村 ・青谷町＝大阪府池田市(池田市立少年自然の家に、毎年多くの小学生が訪れ海水浴を楽しんでいる) ・江府町＝鳥根県西ノ島町(小学生の相互訪問を実施) ○姉妹都市ではないが、継続的な友好交流を行っている市町村 ～国府町＝岐阜県国府町 ・福部村(村内小学生)＝神戸市立南五葉小学校(6年生の修学旅行を兼ねて交流が行われている) ・鹿野町＝鳥根県津和野町 ・東郷町＝愛知県東郷町、宮崎県東郷町、鹿児島県東郷町 ・岸本町＝北海道新冠、沖繩読谷村(新冠には毎年、牧場に中学生を派遣し研修を行っている) ・大山町＝富山県大山町、大分県大山町 ・中山町＝愛媛県中山町 ・日南町＝宮崎県日南町 ・江府町＝神戸市魚崎町 ○国内他地域とのサミットによる交流を行っている県内の市町村 ～鹿野町＝中国五県と真ん中サミット ・江府町＝あやめサミット	
提携型交流(海外)	○海外との姉妹・友好都市(校)縁組を行っている市町村 ～鳥取市＝清州市(韓国) ・鳥取市湖山西小学校＝西安小学校(中国) ・鳥取城北高校＝アーシュラフレイン・カソリックカレッジ(オーストラリア) ・鳥取商業高校＝清州女子商業高校(韓国) ・米子市＝保定市(中国) ・米子北高校＝パイロン高校(アメリカ) ・倉吉市＝羅州郡(韓国) ・境港市＝瓊春市(中国)、元山市(北朝鮮) ・泊小学校＝原衆明倫国民学校(韓国江原道) ・三朝町＝ラマルーレパン町(フランス) ・名和中学校＝啓星中学校(韓国釜山市) ・中山町＝テメキュラ市(アメリカ) ・中山中学校＝マルガリータミドルスクール(アメリカ) ・日南町＝スコツパレー市(アメリカ)	
国際交流	○「智頭農林高校とカナダの高校との交換留学」～夏に2名の高校生の交換留学を行い、ホームステイ等を実施 ○「京都外国語大留学生との交流」～京都外大研修施設を核に、同大留学生等とホームビジット等の交流を実施 ○「ホームステイ受入者登録制度」～外国人のホームステイ受入れ家庭の登録制度を設け、日本文化とのふれあいを促す ○「米国高校生との交流」～大阪YMCAを通じて、米国西海岸からきている高校生との交流を実施 ○「中国・江蘇省太倉市交流事業」～太倉市からの視察団を受入れ、同時に小中高生の派遣も実施 ○「中国農業研修生受入れ事業」～中国河北省農業研修生を受入れ、民泊しながら半年間の農業研修を実施 ○「溝口町海外視察派遣制度」～毎年10名の町民を10日間程度の日程でヨーロッパ方面へ派遣 ○「勤労青年海外派遣事業」～「鳥取市人づくりまわり基金運営委員会」により実施、毎年10名が海外に派遣 ○「中学生海外研修派遣事業」～中学3年生全員を対象に韓国へ派遣し、現地中学生との交流等実施	智頭町 鹿野町 三朝町 日南町 青谷町 八東町 溝口町 鳥取市 会見町
余暇活動型交流	○「おもちゃ博物館」建設～「鳥取世界おもちゃ博覧会」を顕彰する施設として設置(今年7月オープン予定) ○「観光キャバパン隊」派遣～毎年5ヶ所程度、県外にしゃんしゃん傘踊り隊を派遣し、観光キャンペーンを実施 ○「水木しげるロード」の設置～JR境港駅前の通りに、「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪のオブジェを設置 ○「因幡万葉歴史館」開館～昨年10月にオープン、鳥取県東部の文化観光拠点として位置づけられている ○「お城山展望台・河原城」建設～かつて秀吉が陣を築いたというお城山に、河原町のシンボルとして建設 ○「さしアストロパーク」の建設～反射望遠鏡を中心とした天体観測施設、宿泊施設等も整備されている ○「温泉館ホットピア鹿野」建設～平成5年にオープンした、多種類の温泉入浴が可能な施設 ○「燕趙園・竜鳳閣」建設～国内最大級の中国庭園である燕趙園は今年の夏にはオープン予定 ○「女将キャバパン」温泉を送る特急便、事業～女将が三朝温泉のお湯を都市の施設へプレゼントし、観光PR等行う ○「やすらぎの里・湯の関」建設～今年4月にオープン予定している温泉施設、あわ風呂等各種の浴槽がある ○「植田正治写真美術館」の建設～世界的な写真家植田正治氏の作品を展示する美術館、今年秋オープン予定	鳥取市 鳥取市 境港市 国府町 河原町 佐治村 鹿野町 東郷町 三朝町 関金町 岸本町
ファンクラブ的交流	○「ふるさと隊員制度ComComなわ」～名和町の出身者等から隊員を募集し、町民と共町づくりを推進 ○「中山ファンクラブ」～町出身の県外在住者に入会してもらい、町報等情報誌の送付等を行っている ○「砂丘長いも一坪地主事業」～砂丘畑一坪分のオーナーを募集し、収穫時には作業を楽しんでもらう制度 ○「カサラファーム農地契約制度」～1区画500m ² の貸農地を提供し、農作業体験を楽しんでもらう事業 ○「ふるさととっとり友の会」事業～とっとりアブティ協会の主体となり、会員に年4回の特産品の宅配等を実施 ○「米子えもん会」宅急便事業～市の企業が共同で組織、郵便局の宅配事業を行っている ○「万葉のふるさと宅配便事業」～国府町の特産品を全国の会員に年5回宅配している ○「広報誌の県外へ発送」～県外在住の町出身者や希望者を対象に、市町村広報誌の発送を実施	名和町 中山町 北条町 江府町 鳥取市 米子市 国府町 各市町村

Ⅲ. 鳥取県として目指すべき交流のあり方

1. 鳥取県が目指すべき交流

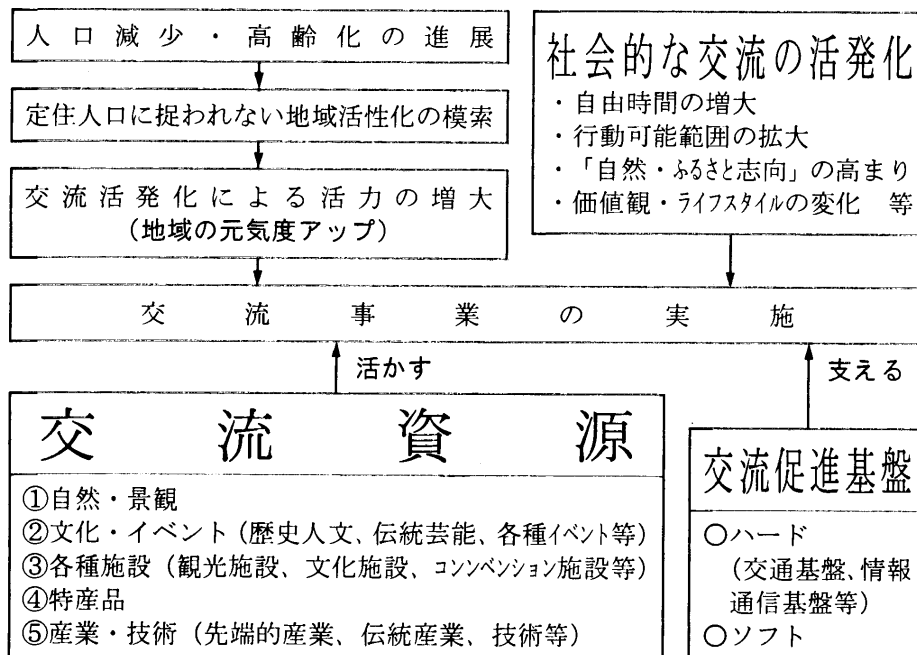
(1) 交流における県の役割

交流における県の役割には、大きく分けて以下の二つのものが考えられる。

第一は、地域活性化のために交流活動を行う各市町村の支援・後押しの役目であり、各種の交流基盤となるインフラの整備などがこれに当たると考えられる。また、交流に関する各種情報提供や、交流事業や施設PR等の支援、さらには、継続的な交流関連指標の補足を各市町村に働きかけることなど、ソフト面での取り組みも重要な役目だと考えられる。

第二は、県として独自に取り組むにふさわしい交流の推進である。例えば、長期的視点での地道な取り組みを必要とする交流や、規模が大きく広域的な取り組みが必要な交流など、各市町村単独よりも県単位での取り組みが望ましい交流があり、そうしたものに対しては県の積極的な取組が重要になると考えられる。

図表14 交流事業実施についてのフロー表



(2) 県が目指すべき交流

県が目指すべき交流については、第一に、市町村単位よりも県単位での取り組みが望ましい交流ということがある。すなわち、「日本海国土軸」や「環日本海交流」など、長期的視点や広域的な取り組みが必要となる交流である。

第二に、鳥取県は、優れた自然・景観、人文・歴史的資源、対岸諸国との近接性、特色ある農林水産業や先端的産業、地域独自の技術シーズなど、多様な交流資源を有しており、これらを十分に活用したものでなければならない。

県の役割や本県の有する交流資源、社会・経済環境の変化などを踏まえると、今後本県においては、①観光の振興、②コンベンション・イベントの推進、③対岸諸国をはじめとする国際交流の推進、④産業・技術を活かした交流の推進、⑤積極的な情報の受発信、の5つのタイプの交流を目指していくべきであると考えられる。

図表15 鳥取県の目指すべき交流のあり方

目指すべき交流	意義	課題
観光の振興	多くの自然・景観、歴史・文化資源や観光施設等を活用し、多様化していく人々の余暇活動へのニーズに対応することで、滞在型観光客の流入を図る。	○優れた自然・景観の保全 ○交流拠点となる観光資源のネットワーク化 ○交通・情報通信基盤や宿泊施設の整備 ○宣伝の強化 ○埋もれた観光資源の発掘 等
コンベンション・イベントの推進	整備が進みつつあるコンベンション関連施設や豊富な観光資源（アフターコンベンション資源）を活用し、地域の資源を活かした特色あるコンベンションやイベントの創出・誘致を図る。もって、流入客の増大、地域の情報発信力の強化等に資する。	○コンベンション関連施設の整備 ○地域資源を活かしたコンベンションの創出・誘致（環日本海交流、砂漠緑化等） ○アフターコンベンション機能の強化 ○コンベンション推進・支援機関の機能強化 ○コンベンション関連産業の育成 ○地域のホスピタリティの向上 等
対岸諸国を始めとする国際交流の推進	対岸諸国との近接性、交流拠点となる境港FAZ等を活用し、対岸諸国への国際協力や経済的・文化的交流を促進する。	○人、モノ、情報のアクセス整備〔対岸諸国とのアクセス、後背地（山陽、関西等）とのアクセス整備〕 ○交流を支える産業基盤の整備〔県内における産業の高度化・企業の国際化、後背地との連携強化〕 ○交流を支える人材の育成 等
産業・技術を活かした交流の推進	先端的産業や地域の資源を活かした産業の振興により、国内他地域、海外との人的・物的交流を促進する。あわせて、砂漠緑化技術、氷温技術など地域独自の技術シーズを活用し、国内他地域、海外との技術・情報交流を促進する。もって新たな技術シーズの創出、新産業の創出へと展開する。	○地域中堅・中小企業の育成（起業化支援等） ○研究開発型企業、先端技術活用型企業等の誘致 ○1次産業を含む地場産業の振興 ○既存研究機関等の機能強化 ○新たな研究機関の誘致 等
積極的な情報の受発信	県内の誰でも、何処からでも自由に情報を受・発信できるシステムを構築し、同時に情報の収集・管理を行う施設の整備を行う。これにより、情報交流を活発化させ、新たな交流機会の創造に結びつけていく。	○マルチメディアや情報に関連した活動の支援を行う施設の整備 ○県内の何処からでも同条件でアクセスのできる基幹ネットワークの整備 等

2. 目指すべき交流についての「交流人口」指標の設定

提示した5タイプの交流を、今後の地域活性化に役立てていくためには、その現状把握が必要と考えられる。しかし、これらの交流の一つ一つは、非常に幅広い内容を含んでおり、それを表す全ての指標についての把握は困難である。従って、本調査では、交流タイプごとに、最も良くその状況を表していると考えられる幾つかの指標を「交流人口」指標として選定し、その指標数値を調査することにより、それぞれの交流タイプの現状把握を行うこととした。

なお、ここで言う「交流人口」は、単なる人口という数値では測りきれない、社会経済のあらゆる交流状況を総合的に捉えた概念とすることから、あえて人数（人口）以外の単位で測定できるものも対象としている。また、指標間で数値の差があまりに

も大きいものがあったり、人数で測定できるものばかりでないことから、統合化による総合指標の作成はあえて行わないこととした。

選定した指標、選定理由は図表16の通りであり、算定された指標から過去のトレンドを考慮し、将来見通しの推定も行っている。

図表16 目指すべき交流の指標と将来見通し

目指すべき交流	実現に向けた目標	「交流人口」指標	指標の選定理由	現 状	将来の見通し	
					平成12年	平成22年
観光の振興	観光客の増大	①観光入込客数	観光振興の進捗度合いを総合的に表す	(H.5年) 9,405千人	10,400千人	12,000千人
	宿泊施設の整備	②県内宿泊施設の宿泊客数	滞在観光客がもたらす効果を表す	(H.5年) 2,757千人	3,100千人	3,500千人
	観光(交流)施設の整備	③有料施設利用者数	施設整備に対する効果を測るうえで重要	(H.6年) 1,180千人	1,500千人	2,000千人
コンベンション・イベントの推進	積極的なコンベンションの誘致・開催	④コンベンション参加者数	取組程度、成功かどうかを端的に表す	(H.6) 38,171人	60,000人	100,000人
	積極的なイベントの開催	⑤イベント参加者数	同上	(H.6) 1,056千人	1,320千人	1,800千人
対岸諸国を始めとする国際交流の推進	県民の海外渡航の促進	⑥出国者数	広い意味で一般的な海外との交流を表す	(H.5) 30,261人	48,000人	70,000人
	県内への外国人の受入れの増大	⑦県内での外国人宿泊客数	同上	(H.3) 3,522人	4,700人	5,300人
	県内空港からの海外渡航機会の増大	⑧国際チャーター便数	本県との国際交流としての状況を表す	(H.5) 78便	200便	400便
	留学生・研修生等の受入れ促進	⑨留学生・研修生等の受入れ人数	県民の国際意識・感覚を育てる上で重要	(H.6) 252人	380人	600人
	海外への視察派遣の促進	⑩外国への視察派遣者数	姉妹都市等の関係の深い交流に結びつく	(H.6) 639人	900人	1,500人
	海外からの視察受入れの促進	⑪外国からの視察訪問者数	同上	(H.6) 491人	700人	1,200人
産業・技術を活かした交流の推進	県内研究機関と他県研究機関との共同研究の活発化	⑫高等教育機関・公的試験研究機関の他県研究機関・企業との共同研究件数	他県との新たな交流・連携につながり、新たな技術・産業創造につながる	(H.6) 15件	30件	50件
積極的な情報の受発信	幅広い情報発信の強化	⑬県外への電話の総通話発信量	個人を含め広い意味での情報発信を表す	(H.5) 6,000万回	7,600万回	10,000万回
	県外在住の鳥取ファン増大	⑭地域情報誌の県外での定期読者数	自治体の情報発信としても捉えられる	(H.6) 1,700人	2,400人	3,600人
	鳥取県のイメージアップ	⑮「鳥取」に関する新聞記事数	本県の知名度上昇やイメージアップにつながる	(H.6) 2,141件	2,900件	4,500件

IV. 交流人口増大のために

今後、鳥取県が地域として活性化していくためには、前節で述べた5タイプの交流を中心として、様々な交流の活発化を図っていくことが重要である。本章では、より大きな視点から、様々な交流を活発化させるための方策の検討を行うこととしたい。

1. 交流インフラの整備

今後、「交流人口」を増大させていくためには交通網、情報通信基盤などの交流インフラの整備が重要になってくる。

交通網については、高速交通体系の整備による大都市圏や地方中核・中心都市圏からの時間距離の短縮、地域内の交流拠点間のネットワーク整備などが重要な課題になってくる。情報通信基盤については、高速・大容量の基盤整備を進めるとともに、新しいメディアを活用した情報ネットワークの整備等により、県内どこからでも、容易に情報の受発信が出来るようなシステムづくりを進めていくことが大切になってくる。

2. 交流施設の整備

施設整備では、独自の資源を活かした個性的な施設作りや、時代のニーズに対応した自然・農業体験等の行える施設の整備などが重要となってくる。また、図書館・スポーツ施設等の公共的施設についても、他地域からの訪問者が気軽に利用できるような施設としていくことが必要になってくると思われる。

宿泊施設については、滞在期間の長期化、出費の差し控え傾向などを背景に、今後、「低料金」ということが一つのポイントとなってくると思われる。オートキャンプ場や民宿、公的宿泊施設など、低料金で長期滞在のできる施設の整備を進めていくことが重要な課題になってくるだろう。

3. 交流事業の効果的推進

全国各地で様々な交流事業が行われているが、確かな成果を挙げるためには、以下の点にも留意すべきである。第一に、地域の特色や個性を十分に採り入れ、他地域との差別化、個性化を図っていくこと。

第二に、余暇活動に、精神的・肉体的な自己啓発が求められていることに留意し、今後、精神的満足という観点から交流事業を企画実施していくこと。

第三に、一過性でなく、継続的な事業として進めていくこと。なぜなら、来訪者の地域に対する愛着の増加、地域のイメージアップ、住民の意識改革などの効果も、繰り返し訪れることにより大きくなると考えられるからである。

4. 交流ネットワークの形成

現在は居住していなくても、かつてその地域で生活し、地域の魅力に接した暮らしをおくっていた人は、今でも地域に対して何らかの良い印象を持ち続けていると考えられる。そうした人々との間にネットワークを形成し、情報の受発信等を行うことは、非常に意味のある事業になってくるものと思われる。

その効果は、様々な情報提供やアドバイス等による新しい活動の展開につながるとともに、その地域での新しい「交流人口」の創出にもつながる。

今後は、県外在住の地域出身者や、かつて職場や学校などで県内に在住していた人々を対象として、地域広報誌の定期的送付やイベントへの招待等を行い、精神的つながりがいつまでも保てるような仕組みの整備を行っていくことが必要だと考えられる。

5. 交流資源の活用

どのような地域にも、そこにしか存在しない独自の交流資源があり、それらには地域外の人々を引きつける魅力が必ず備わっている。「交流人口」の増大を図っていくためには、そうした資源の効果的な活用が重要となってくる。そのためには、第一に、埋もれた資源の発掘を行うことが重要となってくる。

第二に、見つけ出した資源の魅力を磨き上げていくわけだが、他地域の資源との差別化を図るため、その資源をテーマとした拠点施設の整備や、イベントの開催などの戦略を進めていくことが必要となってくる。

第三に、その交流資源の素晴らしさを全国にアピールすることで、人々に興味を喚起させ、その地域を訪れたいと思わせるような仕掛けづくりを行っていくことが重要と考えられる。

6. 県民一人ひとりの意識改革

前述の課題に向けた努力をいくら行っても、地域の「もてなしの心」が不十分では来訪者は決して満足しないものと考えられる。従って、受入れ側の住民に対して「もてなしの心」や「地域の交流資源に対する理解」、「自地域に対する誇り」などを醸成するための教育を行っていく必要があると考えられる。また、交流活発化を地域の活性化に結びつけていくためには、交流による良い面ばかりでなく、例えば「ゴミの増加」などの弊害に対して、上手な対処方法を学んでいくことも重要だと考えられる。

さらに、県民の意識改革にとって、最も重要と思えるのは、「交流」そのものに対する意識の変革であり、今後は県民の一人ひとりが常に交流を地域の活性化に役立てていくという強い意識を持つ必要があると考えられる。

おわりに

鳥取県は、恵まれた美しい自然や豊かな緑、長い歴史の中で育まれて来た伝統的な文化があり、次世紀の中心的なニーズとなるであろう「自然」、「文化」、「健康」といった要素には十分恵まれていると考えられる。今後は、こうした魅力を十分に活用していくことで、様々な交流や連携を生み出し、新時代に向けた新しい鳥取県の発展を目指して行くことが重要となる。

そのためには各市町村の自主的な努力や、県の総合的な後押しなどが重要となってくるが、最も大切なのは「交流の活発化」や「地域の活性化」に対する県民一人ひとりの意識が開かれていくことであり、自地域に対する誇りや愛着を育てていくことである。

また、交流の現状を数量的に把握し、それにより将来的な目標を設定していくことも大切である。そのために、鳥取県「交流人口」指標について、定期的かつ正確なデータ管理が出来るようなシステムの構築が必要であり、県あるいは市町村の関係の方々にはぜひそうした努力を行ってほしい。また、そうした努力こそが、住民の交流に対する意識を変え、市町村の交流を活発化させる原動力となるものであり、県の招来発展に直結する最も重要な事項であると考えられる。